

解放直後・在日済州島出身者の生活史調査（7・上）

—— 玄璣玫さんへのインタビュー記録 ——

藤永 壯／高 正子／伊地知紀子／鄭 雅英／皇甫佳英
高村竜平／村上尚子／福本 拓

A Survey of the Life Histories of Resident Koreans in Japan
from Jeju Island in the Immediate Postwar Period (7) — Part I —
— An Interview with HYUN Jongmin —

FUJINAGA Takeshi, KO Jeongja, IJICHI Noriko, CHUNG Ahyoung
HWANGBO Kayoung, TAKAMURA Ryohei, MURAKAMI Naoko
FUKUMOTO Taku

本稿は、在日の済州島出身者の方に、解放直後の生活体験を伺うインタビュー調査の第7回報告である。この調査の目的や方法などは、「解放直後・在日済州島出身者の生活史調査（1・上）」『大阪産業大学論集 人文科学編』（第102号，2000年10月）に掲載しているので、ご参照いただきたい。

今回の記録は、1928年済州島旌義面新川里（現・済州特別道西帰浦市城山邑新川里）のお生まれで、大阪市生野区在住の玄璣玫さんのお話をまとめたものである。

インタビューは2007年10月4日、玄さんのご自宅で、藤永壯・高正子・伊地知紀子・皇甫佳英・高村竜平・村上尚子の6名が聞き手となって実施した。その後、原稿の整理と校正を担当した皇甫が、不明な箇所の確認と編集原稿のチェックをお願いするため数回玄さんを訪問し、修正した原稿は鄭雅英を加えた7名で確認した。皇甫による再修正を経て、福本が参考地図の作成、伊地知と藤永が用語解説、藤永が最終チェックを担当した。

以下、凡例的事項を箇条書きにしておく。

(1) 本文中、文脈からの推測が難しく誤解が発生しそうな場合や、補助的な解説が必要な

場合は、[]で説明を挿入した。

- (2) とくに重要な歴史用語などには初出の際*を付し、本文の終わりに解説を載せた。第4、5回報告で解説した用語については、丸数字で報告番号を、アラビア数字で注番号を記し、かっこでくくった(例：(④-*13)は第4回報告の*13をあらわす)。また、2000～2001年の第1回から第3回の報告でとりあげた用語は「(再掲)」と記して解説した。
- (3) 朝鮮語で語られた言葉は、一般的な単語や固有名詞などの場合には漢字やカタカナで、特殊な単語や文章の場合はハングルで表記し、日本語のルビをふった。
- (4) インタビューの際に生じたインタビュアー側の笑いや驚きなどの反応については、〈 〉で挿入した。
- (5) 話者が語った日本語・朝鮮語は、話者の発音どおりに表記することを基本としたため、いわゆる「標準語」とは異なる場合がある。

なお本稿は言うまでもなく、玄璣さんの証言からとくに重要と思われる箇所を中心に抜粋、編集したものである。できるだけ客観性に配慮しつつ証言を再現しようと努めたが、編集の手が入っている以上、叙述に編者の主観が反映されている可能性は排除できない。本稿の内容に関する責任は全面的に編者にあることを、あらかじめおことわりしておく。

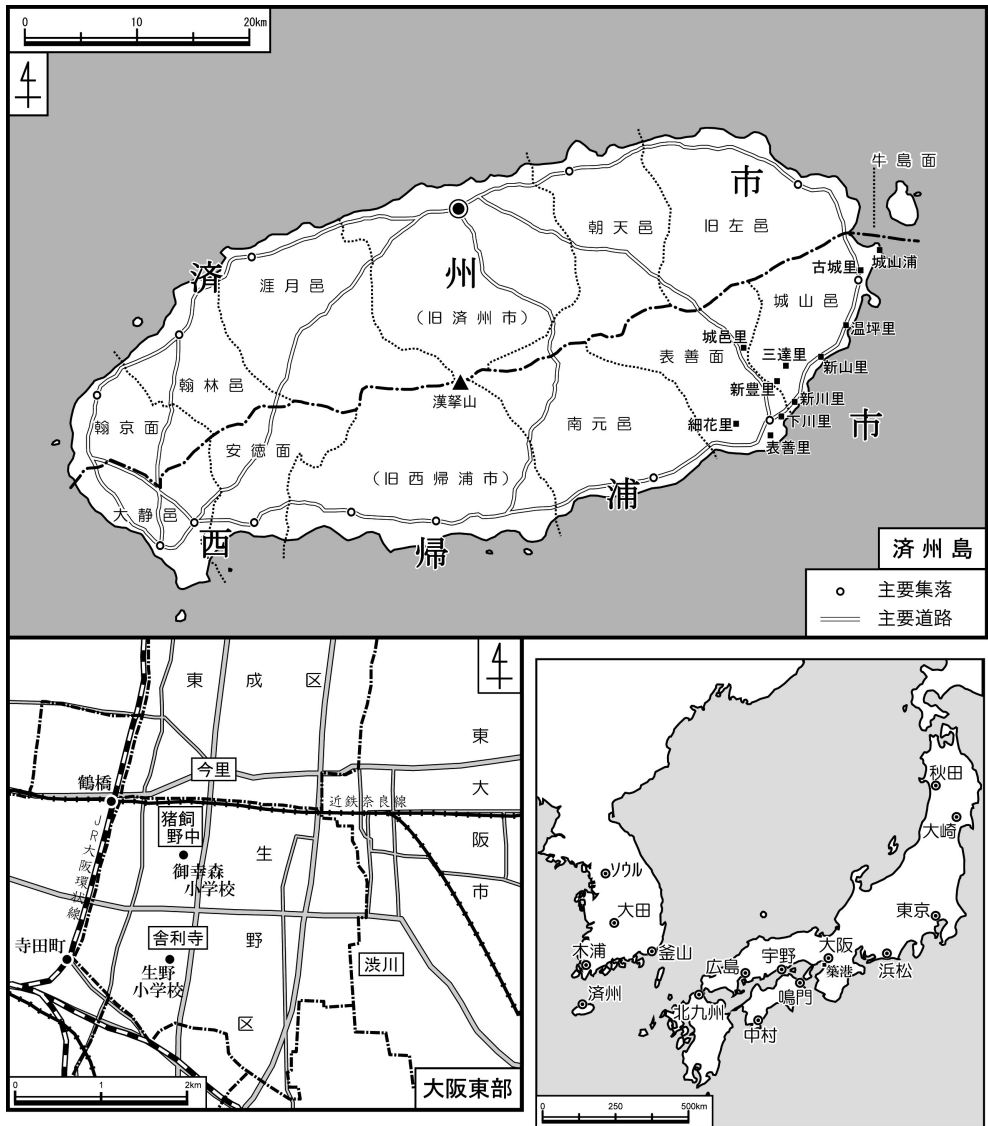
故郷の小学校で

——1928年にお生まれになって、小学校に入学されたのが？

玄：小学校に入学したのはね、1940年に小学校4年生だったわけ。そっから計算したらいいんじゃない？ 1940年に日本に来ました。その時は小学校4年生で、私はね、2歳遅れて学校入ってますねん、というのはね、うちの村で学校なかったわけ。で、城邑里^{ソンウプリ}いうてね*¹。城邑里言うたら、山間にある昔の古城ですわ。古い都です。

——え、あそこまでですか？ 通うんですか？

玄：うちの村はね、海辺なんですよ。新川^{シンチョン}。漁村の町ですわ。もちろん農業もやってますけれども。そこからだいたい、3里[約1200メートル]なんですわ、歩いてね。2年遅れて入学したんですわ。その入学の時が大変やって。私の家は叔父^{チャグンアボジ}と、叔父^{チャグンアボジ}っていうのはお父さんの一番下の弟なんですがね、一緒に入学式に行った時に、風がものすご強くて、水溜りに飛ばされて、叔父^{チャグンアボジ}が私をおぶって行って。初めてストーブを見た、そこで服を乾かしてね。치짐떡^{チジムトク}[鉄板などで焼いた餅]。今の丸っこい、中にあんこ入ったお餅。なんていう餅やの？ 回転焼きか。あれをね、1個ね、くれたですよ。おいしかった。あ



んなもん食べたことないのに。

—それは叔父さんがくれたんですか？

玄：いや，その店に売っとるんやろね。その店にストーブがあったんや。それで学校行って入学したけれども，ああいうような思い出があります。3里ですよ，村から。

—何という小学校ですか？

玄：^{ソクアップ}城邑小。

——^{ソングブ}城邑小？尋常小学校？

玄：尋常かな？わからんけど。そしたら^{ビヨソ}表善という所に学校ができたわけ。^{ビヨソ}表善いうたらね、海辺の。うちの村から一本で来れる。一周道路で。^{ソングブリ}城邑里行く場合はね、山越え、川越えて行ったわけ。^{ビヨソ}表善っていうところは、いわゆる一周道路で歩いて行くから。

——その^{ビヨソ}表善に学校ができたのが、何年生の時？

玄：これ、1年生の時。あ、2年生の時やったかな？

——1年は？3里毎日通って。……小っちゃい子どもの足で3里って大変ですよ。

玄：2年遅れて行ったからね。それでもね、行くときでもね、呑気なもんや、遅れててもね。時計見て行くんじゃないからね〈笑い〉。春なんかとても良かったですよ。タンポポとかスマレがいっぱい咲いとるねん。こうやって、もう、吸いながらね。4、5人やったからね、うちの村から学校行くのん。

——大きいんですか？その^{ソングブ}城邑にある学校は。

玄：それがね、昔のね、まあちょっと都みたいなとこやからね、うちの村だけやなくて、隣^{シンブンリ}の新豊里ってところも、そっからもみんな行きよる。学校なかったもん、他は。後からだんだんできたけども。

——学校で習ったのはどういう？

玄：国語と数学だったと思いますけど。

——国語っていうのは、日本語？

玄：ええ、日本語。韓国語もちょっと習いましたわ。それでね、^{ビヨソ}表善に来た時、私2年生の時にね、作文を書けていうてね。今でも忘れんけど、赤塚先生っちゅう人が、日本人のかけっこの速い人やったんですわ。奥さん連れて来てた。あの、赴任したけどね。その時、「日本」っていう作文書けて言うてね。私は何か知らんけどもね、日の丸って旗、書いたわけ。作文を作ったわけ。すごく褒められて、先生に。甲上。甲乙丙やったけ？甲の上。日本という題名やったかな。日の丸の文章を書いたんや。

——どんな内容を書かれたんですか？

玄：それがなー、今思い出せないねん。それを書いて甲上を貰ったことはあるけれど。

——日本語上手だったわけですね。

玄：いやいや、日本語上手やないけれどね。ちょっと書けたっていうこと。そうやって、そして42年に卒業したわけやね、小学校をね。

来日して

——40年に日本に来られて？

玄：ん？ そうそう。というのは、日本に来て、その時に4年生で編入したから。

——最初に来た時はどこに来たんですか？

玄：[大阪]築港。築港の君が代丸^{クンデファン}⑥-^{*14}っちゅうね、君が代丸^{きみよまる}っていう船。

——どこから乗りました？

玄：えっとね。城山浦^{ソンサンポ}、ちゅうところから。

——ご家族全員？

玄：いえいえ、私一人で。付き添いのおっさんがいたわけ、お母さんの親戚で。お母さんがすでに日本に来ていたわけ。海女さんでね、日本に来ていたわけ^{*2}。そして向こう、三重県の志摩あたり、サザエとかね、アワビとか採って日本に居たわけ。

——その時に、渡航証明^{*3}とかって、おじさんが全部手配されたんですか？

玄：いやいや、その時はなかったんちがう？ 私ね、君が代丸^{きみよまる}っていうて、あれは正規な、言うたら航路や、船はな。あれで来たからな、そんな証明がなかったと思うよ。

——お母さんは誰かについて行ったとか？

玄：いや、そういう海女さんを組織して日本に来ていたわけ。いっぱいね、大阪に在住したわけ、お母さんが。そしてお母さんが自分の遠い親戚に日本に来る人いたから、頼んで私を連れてきてもらったわけ。

——じゃあお母さん、ずっといない状態だったんですね？ 学校通ってる間は。離れて住んで。

玄：そうそう、お祖母さんの家で。

——じゃあ、お父さんは？

玄：お父さんは7歳の時に亡くなりました。お父さんは31で亡くなりました。結核です。

——お父さんは、何の仕事をされていたんですか？

玄：^{アボジ}父は国で百姓やがな。日本に来たことあれへん、^{アボジ}父は。

——お母さんは、先生が何歳くらいの時から行ってはったんですか？ 日本に。

玄：40年に日本に来たから、私が42年からお母さんと一緒に生活したわけ。お母さんがいつ来たかは分からんの。40年[よりも]前に間違いない。海女さんとして来たの。

——行ったり来たりですか？

玄：ううん。そんなことなかったな。お母さんは、ずっと[日本に]行ってる。私がお母さんの遠い親戚に連れられて城山浦^{ソサンボ}っていうところから船乗って。

——じゃあ、ご兄弟っていうのは？

玄：兄弟はね、3人兄弟だけどもね。兄貴も一緒にいたわけ、真ん中の兄貴。長男は韓国にいたわけ。

——じゃあ、3人兄弟で一番下？

玄：私、下です。

兄貴はすでに来ていたわけ、日本に。兄貴はね、生野小学っていう小学校がありますね、その夜間小学校に行ってたわけ。兄貴は夜間で私は昼行かしてもらった。御幸森小学校ってとこ。

それから一番悲しかったことはね、小学校6年生の時に、御幸森小学校でね、昼ね、家に弁当食べに行きますねん。そして帰ったらね、すぐ集団行進ってやつがありますねん。運動場を整列して、ずっと何回も、回りますねん。その時、私は2歳年上やったから、すごく背が高いねん。何にも悪いことやってないのにね、校長先生が私をこう引っ張ってね、飛ばしてピンタ張りよるねん。みんな行進する時に。何にも悪いことやってない。今でも忘れへん、うん。

——その時は、日本の名前でも通われていました？

玄：ええ、徳山っていうてました。あの校長のことは今でも忘れへん。今死んどる、あの

時だいぶ年やったもん。ものすご恥ずかしいねん。みんなの前で、行進しとる時にね、ビンタ殴られ、なんか悪いことでもやれば話わかるけれども、納得できひんわけ、話が。

—その時は遅れて入ってくる大きな学生はいなかったんですか？

玄：そうやね。私が一番とにかく大きかった。そうじゃなかったとしても大きいのにね。結局、2年上だから、年とってたから。それで、花園行ってね、東大阪の花園いうて[花園ラグビー場か？]、いわゆる運動会みたいなんありますねん。その時、棒高跳びね、一等しました。走り高跳びや。

—お母さんはいつごろのお生まれってというのは覚えてはりますか？

玄：調べたらわかります。族譜チョクポもってこようか？[族譜を見ながら]私のお母さんは、この人カンインミョンなんです。康仁明。これです。14日生まれ。あの亡くなつとるけど。

—1901年の12月生まれですね。

玄：お母さんは93歳で亡くなっています。私のお祖母ちゃん、お母さんは、ものすごい長生きしています。

—海女ヘニョだって。康カンさんですか？

玄：康カン。뽕한[安らかだという意味の]康カン。

—あの、海女ヘニョでしたら、その少し前に、海女闘争ヘニョトッジェン*4という大きな事件が城山浦ソンサンポのあたりであったのですが、そのことについて、何か聞かれたことは？

玄：海女闘争ヘニョトッジェン？ いや、それはありませんな。あの時はそんな闘争とか、海女ヘニョが闘争するような力がなかったもの。そんだけの思想的な発想もなかったんとかやう？ 海女ヘニョの中に。

—どこですか、お母さんの出身は？

玄：新山里シンサンリ。新山里シンサンリいうたらね、新川里シンチョンリからもうちょっと東の方に行ったところ。うん、お父さん死んだ後やね。お母さんオモニが日本に来たわけ。

—それまでは村で、海女ヘニョで？

玄：海女ヘニョしたり、百姓ヘニョしたり、やってた。

——お父さん^{アボジ}のほうが、若かったんですね？

玄：4歳上、お母さんが。お父さんがね、12歳のとき、結婚しております。お母さん、16歳。ハハハ。9歳で結婚した人おるのに、男の人で。

——お父さんが亡くなってから、日本に潜りにきて、そのままお母さんはここ[日本]に？

玄：お父さんが亡くなってかなり経ってから。その時は分からんけどね、日本に来たのは。

——上手な海女さんだったんですか？

玄：そりゃ、もう、向こうの海女さんはすごい。潜水服も着ないでね、めがねだけかけて。

——素潜りで。上軍^{サンゲン}*⁵ですね。大阪の築港でも潜ってたっていう。

玄：うん、それは分からんけど、うちのお母さんは三重行って、いつもやっていた。

——三重と大阪を行ったり来たり？

玄：いえ、向こう[三重]で下宿してやってた。だんだん戦争が厳しくなった時には、結局紙くず拾ったりね。乞食のよう。紙くずとか、ぼろを拾って売りに行くわけや。

——もうその時になったら、[大阪に]戻って来はって。

玄：戦争が厳しくなって。昭和……そうやね。18年、17年ごろはね。それで、鮭の頭なんかを、日本人が捨ててしまうわけ、ゴミ箱に。それを洗って食べたり。これ、本当の話よ。鮭の頭、あれ、おいしいもの。陸地の人はね、食べない。陸地の人は濟州島の人よりも、裕福なもの。

——大阪に来た時、お母さん三重に住んではったら、先生はどこに、誰と？

玄：猪飼野。中7丁目やね。2階を間借りしてね。3畳の部屋でね。

——誰と一緒にいてたんですか？

玄：兄貴と私とお母さんと。

——お母さんが海女^{ヘニョ}行ってはる時は、お兄さんと二人で？ ご飯とか、どうしはったんですか？

玄：兄貴が炊いてた。生野中学の近くなんですがね。鶏小屋があったわけ、ずーっとね。トッ

トナリ[갯도나리。済州方言と日本語を連結した語で「鶏の隣り」の意]ちゅうねん。4
畳半かくらいの、小屋がいっぱい並んでた。もう20何軒並んでた。そこで終戦迎えたわけ。

朝鮮飴と原爆

——小学校卒業されてからは、どうなさってたんですか？

玄：うん、ぶらぶらやってました。仕事やったりね。浜松っちゅうところ行って、あの飴、飴玉。
小麦粉で飴玉、韓国人が作ります、向こうで。

——朝鮮飴っていうやつ。

玄：うん。それを持ってきてね、溶かして、こう伸ばして、粉つけて伸ばして、[鉄で]ガ
チャガチャやってね。生野で、トットナリの鶏のところで。あれ、案外長くやったな。15
までやったな。

——売れるんです？ それで生活できるくらい？

玄：うん、生活やっていたしね。1回、警察官にね、私のお母さんどつかれてね。

——なんですか？

玄：みんな片づけたのにね。飴、闇やからね。そしたら、上がってきてね。目玉の大きい
警官いるねん。有名やねん、舍利寺にね。上がってきて、飴何もないのに、ゴザありま
すねん。ゴザの上で仕事やりますねん。ゴザ上げたら、いっぱいね、粉ついてた。それ
で正直に言えっていうて、お母さん、どつかれた。今でも忘れへん。

——それは、戦争中ですか？

玄：戦後です。それなりの警官がいた。

——有名だったんですね？ その目の大きい警官っていうのは。

玄：うん、^{スン} ^{ボルレンイ} ^눈 ^뽕 ^이 [出目], ^{スン} ^{ボルレンイ} ^눈 ^뽕 ^이 言うて〈笑い〉。結局ね。うちだけでなく、あっちこっ
ちで悪いことやってた。

——その飴は、どういうところに売りに行くんですか？

玄：卸です、卸。小さい駄菓子やとかね。あの闇市のときはね、闇市で売ったりね。

——闇市ってどの辺にあったんですか？

玄：あちこちあったな。おれ生野住んでたから、寺田町によく行ったな。寺田町の、駅のこっちのほうに。鶴橋もあったけど、鶴橋は行ったことない。寺田町によく行ったな。

——お母さんは、そのころはどういう仕事をやりました？

玄：お母さんは一緒や。

——飴の材料は、浜松まで買いに行くんですか？

玄：ええ。電車乗ると、その時また電車がね、省線[旧・鉄道省の鉄道路線]、環状線がね、何でこんな満員やの。1回リュック背負ってね、下降ろしたわけ。今でもその人生きとるけどね。徒党組んでね、がーっと押してね。飴を引っ張って行って。取ってしまう。1回経験あるな。それで逃げるねん。

——浜松に知り合いがいあったんですか？

玄：いやいや。知り合いやなくても、そこにやっとなる人がいっぱいいた。飴作っとなる人。

——それは^{チエジュ}済州の人ではなく？

玄：陸地の人が多かったな。そこでやる人はな。生野でやってる人は^{チエジュ}済州の人が多。生野で、ああいうな飴^じ買うてきて商売やるのはな、多かったけど。向こうで物作る人は陸地の人が多かったな。

——同じ村の人たちって、どういう仕事してました？

玄：うちの村の人はね、よそで勤めてたな。工場持った人おらへんねん。百姓の人で成功した人もいっぱいおるけれども、うちの村はほんとにそういう人おらへん。

——最初は、猪飼野中で、2階で、その次、そのトットナリってところに？

玄：そうそう。まだうちの兄貴、生きてた時やね。空襲*6の前にな、8月14日の日に、トットナリの屋根、小さいの小屋が、空きやったから、私と兄弟で防空[壕]を掘ってたんです。

——防空壕？

玄：ええ、8月14日に。結局終戦前の日に、防空掘ったわけ、兄貴と一緒に。家の中の防空や。バラックやけども。家の中に防空掘ったら、おかしいんじゃない？家燃えたら

どうなるの？〈笑い〉

——じゃあ、その前の空襲で、何かひどい目に遭われたとか？

玄：私が16歳のときにね、九州のね、若松〔現・北九州市若松区〕に行ったわけ。従兄について行ったけれども、およそ4年くらい先輩ですがね。何か理由は分からないけれども行きました、若松にね。八幡製鉄が近いんですよ。折尾、小倉、若松、戸畑ってね。あの近所にね、その爆撃があったわけ。八幡製鉄のやってね。その時経験したことがありますわ。きんかみ〔銀紙〕みたいなやつが、いっぱい落ちて来るねん。

——銀紙？

玄：ばーっと落ちてくるわけ。そうしたら警察官か、消防官か知らんけど、走って来て、それをみな集めるわけ。そしたら、空もうほんとにB29でね。低空で飛んでね。向こうから火の玉が見えるしね。

それからね、私、大阪来ることになったわけ。しばらくいて、大阪来ることになった。16歳のころ、末ごろと思うけど。その時に、^{こい}己斐〔現在は広島市西区に所在〕ちちゅうところで、あの、電車が走らないねん。そして私は従兄の兄貴から、玄米をちょっともらってね、リュックサック背負って行ったわけ。汽車が走らんから、みんな下りて歩いたわけ。一緒にね。線路のところをずーっと歩いて行ったら、広島に来たわけ。その時、通ったわけ。そうしたらね。広島に川〔太田川のことか？〕があるわけ。で、橋があつてね、その欄干のところをね、こう固まってね、死んだる、みんな。で、もう一人はね、自転車乗って欄干にこうして倒れて、ふくれあがって、身体が。それで川見たら、川の中、いっぱい死体が浮いていた。

——あ、原爆の次の日に通った？

玄：次の日です、原爆。そして、街をね、7、8人が徒党を組んで歩いたんです。汽車に乗った仲間たちと一緒にね。歩いてずーっと行っていたらね。色々な風景を見ましたよ。まだ「みずー、みずー」言うてね、見たら女の人でしたよ。うちの後ろ歩いてて、倒れて、その水道の水でタオル濡らして、口の中にこうして搾ってやったんです。これ本当の話です。そういうなことも見たんです、私。途中で玄米をね、恥ずかしいから捨ててしまったんです。見つかったら、恥ずかしい。私、気が弱いねん。

——玄米を持っておられた、というのはどうして？

玄：[従兄の]兄貴がくれたから。非常にね，食糧が足りない時やったから。

——九州では何かお仕事というか，働いてはったんですか？

玄：え，九州では何したか分かりません。

——何日くらいはったんですか，広島に？

玄：そうやねえ，どれくらいいたかな。そんな長くいなかったけれども。

——終戦までは，また大阪に？

玄：大阪やね。45年，終戦なってから，その時17歳やったんです。終戦，45年には，私17歳やった。で，47年の，19歳のときに韓国に行きました。

——韓国に帰られるまでは，どういうことをなさってましたか？

玄：あの，秋田よう行きました，秋田へ。お米買いに。

——ああ，やっぱり買い出し？ 闇で売る？ お一人で？

玄：いえ，友だちやら，いっぱい。商売やから。僕らの年代のね，生野のあの連中ね。

——その時は，こっちで何か物を持って行って，向こうで？

玄：ここで，長靴持って行ったりね〈笑い〉。女の着物なんかは，もう貴重〔品扱い〕されたけども。私はそういう物は買えなかったからね。長靴とか運動靴とか。

——どこで仕入れるんですか？

玄：いっぱい工場あった。ここ。済州島の人がゴム工場いっぱい持っていたものだから。

——同じ村の人とかじゃなくてですか？

玄：ええ。うちの村はみんな貧乏。そういうな工場持った人はおらへん。どこの村とかは知らんけれども，韓国人がゴム工場ようけやってたね。小さいゴム工場やったね。

——それを持って秋田に行って，米と替えて，また米をここで売って？

玄：うん。それもいろいろありますよー。警察官があの田舎で[電車に]乗るときにね，張るとるとか言うて，みな隠れたりね。いろんなことありました。

——没収されたこともありました？

玄：ありました、ありました、そりゃ。

済州島に帰るまで

——47年に帰国されたのは済州チエジュですか？

玄：はい、済州チエジュです。それがまた、ここでもおかしいねん。釜山フサンまで行ったわけ。釜山フサンからね、汽車で大田たいでんまで行って、大田たいでんから木浦モッポまでこう、来るわけ。そして木浦モッポから船で済州チエジュ行くようになったけれども、釜山フサンで汽車乗ったらね、この汽車[これ以上]行けないのでみんな降りれて言うねんやん。そして向こうの他のところおったら、またこっちへ戻れて言うたりね。その時にね、お母さんがね、後ろにお金ちょっと入っていたわけ。モンペ切られて、こっからお金抜かれ取るわけ。乗ったり降りたりするのは、向こうのね、策略や。暴力団の一つのね。ガラのが悪いところや、釜山フサンは。そして、お金なんぼか知らんけど、わずかな金、抜かれて。モンペ切られて。

——帰る時は、お母さんとお兄さん？

玄：二人だけ。お兄さんはね、徳島県の[鳴門市]撫養ってところでね、石炭を積んでね、韓国から日本に積んできたわけ。その時、伝馬[船]ひっくり返って亡くなった。私の従兄の兄貴がね、船でね。ああいうの商売やっていたわけ。従兄のやつ、四国[九州の言い間違いと思われる]の若松にいた人の兄貴や、船持とった人。で、ああいうの商売やっていたわけ。

——じゃあ、お兄さんの遺体っていうのは？

玄：遺体っていうのは、なかなか上がってこんでね。で、二日くらい経ってから上がってきてね。海岸で火葬して持って帰りました。そしてその時に英霊と思ってね、みんな頭下げてくれました。汽車乗る時とか、みんなね。ホームでね、頭下げて。

——済州チエジュに持って帰られたんですか？

玄：持って帰って。僕ら帰る時にね。

——釜山フサンに行く時は、どこから船に乗られたんですか？

玄：正規の船で行ったんじゃないかと思うわ。そうじゃないと釜山フサン行かないもんな。築港

からかも分からんし、忘れた。そっから木浦^{モッポ}行って、木浦^{モッポ}から船で済州^{チェジュ}に帰ったわけ。

——済州港^{チェジュハン}に入るわけですか？ 木浦^{モッポ}から来て。

玄：うんうん、新川^{シンチョン}に。トラックか何か乗って来たんちゃう[乗ってきたのではないだろうか]？ 新川^{シンチョン}に。

——じゃあ、済州^{チェジュ}で生活するってことで、その時、何を持って行きましたか？

玄：お金はお母さん持ってたから、私はよう分からんけれども、財産^{チェソン}って言うたら、この時韓国でもね、貴重品^{チュウブ}やったから、服^{フク}もんは。服とかそういうの、持って行きましたな。

——済州^{チェジュ}では、また畑仕事ですか？

玄：うん、兄貴^{ケイ}とこでお世話^{セバ}なったから。1番上の兄貴^{ケイ}。でもうちの兄貴^{ケイ}は、百姓^{ヘクシヤク}あんまり出来^デんかったな。身体^{クニ}弱^{ヨク}かったから。

4・3事件の体験

玄：[4・3事件について]それで人殺^{ヒトコロシ}すのを1回見た。人殺^{ヒトコロシ}すのをね。共産党^{キョウサンダウ}っていうて。さっき言うたね。うちのあの城山面^{ソンサンミョン}の新川^{シンチョン}に、向こうは、県庁^{ケンチョウ}[道庁^{ダウチョウ}]じゃなくて、城山面^{ソンサンミョン}の下に管轄^{カンカツ}だったわけ。各部落^{カクブツ}の人を7人だけ、各部落^{カクブツ}。新川^{シンチョン}、新豊里^{シンブンリ}、山達里^{サンダリ}とかね、古城^{コソン}とか、新山里^{シンサンリ}とかね、温坪里^{オンピョンリ}とかね、そういうな村の人たちを各7名ずつ城山浦^{ソンサンポ}に行ってから、竹槍^{タケヤ}をやる稽古^{ケイコ}をしたわけ。왕대^{ワンデ}[太い竹を指す済州方言]っていうて、細い竹やなくて太い竹槍^{タケヤ}に、よう刺^サさるようにこう削^ケってね。あれをみんな肩^カにかついで、城山浦^{ソンサンポ}行^イったわけ。来^キいって^イいうから。各村^{カクム}の人、みんな行^イったわけ。それで竹槍^{タケヤ}の稽古^{ケイコ}してね。

それで、帰^キりに、新山^{シンサン}っちゆうとこ、派出所^{パシヤウ}。その前でみんな整列^{セイレイ}したわけ。各部落^{カクブツ}の人が整列^{セイレイ}したら、これから一人を処罰^{シヤツバツ}するっていうてね。城山浦^{ソンサンポ}にオンケンという所があるわけ、そこの青年^{ニヤン}らしいねん。その時の警察官^{ケイサツカン}、陸地^{リクヂ}から来た安サン^{アン}ホっていう。この人[青年]は本当に殺^{コロシ}されました。呼^ヨんで、今殺^{コロシ}すって言うたわけ。こうして塀^{ヘイ}があったわけ。この辺^{ヘン}から、その入り口^{イリグチ}あるけれども、こっちに派出所^{パシヤウ}なんですわ。ここにね、立たしたわけ、塀^{ヘイ}の所にね。撃^{ウチ}つよって言うた時、見たら、その子がね、黒い目玉^{クロイメダマ}がみな上^ウあが^アが^ガちま^チと^トる。撃^{ウチ}たれる子が、黒い目玉^{クロイメダマ}がみな上^ウあが^アが^ガちま^チと^トる。そうして3発^{サンパツ}撃^{ウチ}ちました。その時、裁判^{サイバン}も何もや^ヤって^テくれ^レませ^セん^デした。

——それは4・3が起ってからのお話ですか？

玄：4・3が起ってから、話です。

——先生が再び日本に戻って来られたのは何年ですか？

玄：私が戻ってきたのはね、49年です。

——あの、4・3事件っていうのは、48年に起っているんですよ。

玄：だから、そのころやったな。前もってお母さん呼んでたんやな。殺された子のお母さんが。お母さんがこう泣いていたわけ。泣いてお母さんも殺しなさいって。お母さんも殺されはったけどね。それだけ見たくなくて。

——なんで殺されることになったかというのは分かりますか？

玄：思想です。思想が違うちゅうてね。いわゆる、アカっていうことは徹底的にやっていたからね。その時はね、いわゆる無政府時代のような気がするね。もう陸地からどんどん入ってきたわけ。以北青年^{イブクチョンニョン}[西北青年団^{(4)*17}]っていうてね、北から流れてきた青年がね、ちょっと乱暴だったわけ。北から来た青年が。

——どんなことするんです？

玄：その何というか、村の人みんなに「出て来ーい」っていうからね、村を出て行ったわけ。あの一週道路に出て来たらね、整列してみたらね、あの人たちが鉄兜をかぶってね、あの、鉄砲持ってね、ずっと歩いてきよって。そして僕らは、こうして礼したわけ。あの人らも一杯飲んでも、こうして歩いてくるわけ、何人も。軍隊よ。^{イブクチョンニョン}以北青年や。向こうから来た、北朝鮮から来た、うん。

——なんで彼らが^{イブクチョンニョンダン}以北青年団だと分かったんですかね？

玄：もう、すぐ分かる。^{イブクチョンニョン}以北青年ちゅうこと。済州島の人はそのことしてない。みんなもう小さくなってしまってたね。ああして威張っていたのはね、陸地から来た人たち。

——先生が^{チュジュ}済州に戻られて、^{シンチョン}新川に行くと、その時の村の雰囲気ってどんな感じですか？

玄：村の雰囲気は、うちの村はね、一人も死んだ人おらへんし、山に上った人もいないわけ。非常に穏やかな人たち。

——じゃあ4・3事件の時の体験という、先ほどの処刑されたのを見た、その他には特
に？

玄：それとね、城壁^(4)*18)やな。村にね、みんなあの石垣でね、囲ったわけ。あの時は激
しかったわー。石がなくてね。方々に石探してね、村を囲むわけ、石で。大変やったでー。
だって石をとるのに、両サイドだけ空いててね、そこに包丁を「見張りに」持たすわけ、
包丁。竹槍もって包丁出すわけ〈笑い〉。

——先生も見張りさせられましたか？

玄：うん、わしもやったことある。

——女性もやるんですか？

玄：女性はやらない。石運びは女性もしたよ、石運びは。でもな、包丁は必要なことは女
性はせんかった。

——何日くらいで、その城を作っちゃうんですかね？

玄：何日かわからん。後ろの担ぎ役でね、他の者^{もん}もみんなそうやったからな。

——その中に住まなければいけなかったんですね？

玄：うん、というのは、山から攻めてくるっていう意味であれをしたらしいけれども。あ
ほなことばかりして。

——山から食糧を出せとか、そういうことはなかったんですか？

玄：うちの村はなかったね。うちの村は山から襲撃されたこともないしね。

——山から逃げてきた、疎開させられた人が、同じ村に住んだとかはなかったんですか？

玄：それ、なかった。うちの村になかったな。それで表善^{ビョソン}ってところあるわけ、その上に
兔山^{トサン}ってちゅうところがあるわけ。細花里^{セファリ}ちゅうところがあつてね。そこで、いわゆ
るアカちゅう人がみんな連れられて、ぼくはね、70何人死んだと思つたらね、これは
電話でちょっと聞いたら、47人死んだ。47人死んどるんやって。

——どなたに聞かれたんですか？

玄：えっと私のね、兄貴の息子が。今濟州^{チェジュ}の、道庁^{トチョン}のね、事務官^{サムクワン}やつとるわけ。それで聞

いたわけ。妻子は鉄砲で殺しておいてね、後からね、村の青年たちが竹槍を持ってね、息しとる人を見たら、竹槍刺して殺したりね。もう死んだふりも、したんとちゃう？鉄砲で殺してみな倒れて。これは、私が実際見たことない。だからこれ聞いた話。

—それは、その当時に聞いた話？

玄：うん、そうそう。それでね、鉄砲の音聞こえたもん。うちの村に。だいたい1里やね。
シンチョン ハチョン ビョソン
新川，下川，表善やからね。

—そのとき村になんか、民保団*7とか？

玄：あった。民保団。民保団の中にもね、決死隊ってやつがあった。ハハハ。

—何するんですか？

玄：竹槍もってから闘う、いうて。[山から]来たら、先頭立って、闘う。

—訓練するわけですか？

玄：訓練してね。私も決死隊に入っていた。漫画よ、漫画。

—入って言われるんですか？

玄：いやいや、ここ[体]見てね、ちょっと頑丈そうでね。民保団の偉いさんがね、決めるわけ。村で、この辺の村でね。ただ1回、私、さっき言うたけど、城山浦^{ソンサンポ}でね、集団でね、訓練したことはあるけれども。

—村には、派出所？

玄：うちの村にはない。表善^{ビョソン}にはあるな。面の所在地やから、かなり大きいな村やね。
ビョソン
表善^{ビョソン}いうところは。

—^{ハチョン}下川って小さい村？

玄：小さい村。うちのすぐ隣の村やから。

—警察来るとしたら、^{ビョソン}表善から来るんですね？

玄：うちは城山面^{ソンサンミョン}やから、城山^{ソンサン}から来る。^{ハチョン}下川は表善^{ビョソン}やからね。

——石垣に囲まれている時って、食べ物とかどうしてたんですか？

玄：食べ物はみんな貯蓄しとる。やっぱり農村で囲まれて、みな畑に、みな行ってたわけ。

——何作ってはったんですか？

玄：粟とかね、麦とかね。あの、お米はない。

——お米はなくて、海女さんらは海で採ったものを売りに行くことはあるんですか？

玄：それはあったん違う？ あの、漁船なんかいっぱいあったからな、遠い所から買いに来よる。海から遠くにおる、山の方におる人たちが買いに来るわけ。

——どういうものが山から来るんですか？

玄：なんか小さいあの、^{ボッ}芟とかね、小豆。穀物っていろいろあったわ。蕎麦とかね、あったな。交換多かったな。うん。金が少なかったんちがう？ 魚と交換したな。

——^{コサリ}蕨とかはどうですか？

玄：^{コサリ}蕨はけっこうね、海辺の人、^{コサリ}蕨けっこう採るよ。

——その、城作ってからは、入り口とかに歩哨立っているじゃないですか。外出る時は、何か見せたり、許可もったりとか？

玄：なんか、そういうな証明あったな。そんなんあったな。僕は持ったことないけれども。

——^{ヤンミンチュン}良民証*8？

玄：うん、そんな、そんなんあったような気がするな。それは村で発行しなかったような気がしたけれどもね。陸地とか行く場合やったら、そういうな証明、^い要ったけれども、村ではなかったん違うかな。

(以下、次号)

【用語解説】

* 1 城邑里の小学校

表善面城邑里で最初に普通学校（小学校に相当する植民地期の朝鮮人初等教育機関）が開校したのは1909年7月で、校名は「旌義公立普通学校」であった。1935年4月に「公立表善普通学校」と改称、1937年9月、同校が表善里へ移転したのと同時に城邑里には「城邑尋常小学校」

る研究』広島大学大学院国際協力研究科博士学位論文，2007年，など参照。）

※本稿6・上（『大阪産業大学論集 人文・社会科学編』第4号，2008年10月）用語解説*13の記述が不十分であったため，全面改稿のうえ再掲した。

* 4 海女闘争

1932年1月，濟州島旧左面を中心に起こった海産物の買収価格をめぐる海女たちの抗議運動。濟州島海女漁業組合の指定した商人が，1931年夏ごろより露骨なダンピング価格でアワビやカジメを買収しようとしたため，旧左面下道里では海女たちが組合に抗議したが，組合はこれに応じようとしなかった。そのため翌32年1月に，旧左面細花里などで下道里および近隣地域の海女たちによるデモが数回にわたって繰り広げられ，とくに1月12日には巡回中の田口禎憲島司を包囲して団体交渉を行い，要求を認めさせた。しかしこの闘争を契機に，海女たちの夜学の教師であった青年らをメンバーとする秘密結社・朝鮮共産党濟州島ヤチェーイカの存在が発覚，関係者は検挙され，最終的に11名が有罪判決を受けた。海女闘争は，女性が主体となった植民地期濟州島最大の民衆運動として大きな意義をもつが，一方でヤチェーイカ構成員らの検挙により，青年知識層を中心とする社会運動は大きな打撃を被ることになった。

* 5 上軍

濟州島海女は，技量に応じて上軍・中軍・下軍に分けられる。明確な基準があるのではなく，村ごとに漁獲量をもとにだいたいの目安で区分されている。裸潜水漁業に携わる人びとどうしの相互認証の指標となっている。

* 6 大阪大空襲（再掲，一部修正）

戦時中，大阪地域への空襲は約50回を数え，このうち8回が「大空襲」と呼ばれる規模の大きいものであった。最初で最大の空襲（1945年3月13～14日）で大阪市の中心部が灰燼に帰した後，焼け残った地域への爆撃が45年6月に4回，7月に2回，8月に1回行われた。このうち8月の最後の空襲は，玄璣玖さんの証言にもあるように，日本の敗戦前日の8月14日のことで，大阪陸軍造兵廠を標的とし，これに近い国鉄京橋駅でも大きな被害が出たことから「京橋空襲」とも呼ばれている。この空襲での正確な犠牲者数は不明だが，身元不明者を含め，700～800名に上ると見られている。

* 7 民保団

郷土防衛を名目に組織された地域住民の団体。1948年4月，南朝鮮地域の占領にあたっていた米軍政庁は，満18歳以上55歳以下の男子を強制的に加入させる「郷保団」の組織をはじめた。郷保団は事実上の警察補助機関として警察署単位で編成され，洞・里単位でその分団がつくられた。組織づくりの背景には，48年5月10日に予定されていた南朝鮮単独選挙を円滑に実施する目的があったと見られる。郷保団は選挙後に解散したが，濟州島をはじめ一部地域では，民保団という名称で再編され，活動を続けた模様である。とくに濟州島では，遊撃隊の攻撃を防ぐ城壁の建設や，夜間の歩哨，軍警による討伐作戦時の補助員などに動員された。（『済民日報』四・三取材班〔金重明・朴郷丘訳〕『濟州島四・三事件』第2巻，新幹社，72～75頁，など参照。）

* 8 良民証

1948年5月末より遊撃隊討伐作戦に従事しはじめた第11連隊では、強引な作戦展開の結果、多くの無関係な住民を捕虜とした。これらの住民を帰宅させる際、同連隊では遊撃隊とは無関係であることを証明する「良民証」を発給したという。良民証は済州道警察局長と憲兵隊長の共同名義で発行され、居住地域外に出る場合は当局の許可を得て、日程と場所をその裏面に記載するよう定められていた。（『済民日報』四・三取材班〔金重明訳〕『済州島四・三事件』第3巻、新幹社、118～121頁、など参照。）